

岩手の部活動を支えるPTA



▲全国高総文祭本番前日練習

鹿踊りの指導に就いたのは3年前の春。半年が経ち秋になると3年生が引退し、2年生が2人、1年生が16人！個々の実力差が大きいのが、やる気と鹿踊りが好きだということは見えていなかった。

15kgの装束を着けて踊り故障しない身体づくり、操作が厄介なササラの動き合わせ、鹿踊りの魅力に欠かせない唄の練習に相当の時間を費やした。足踏みや首振りの基本動作の反復だけで一日終わった事もあった。

13分間の大会演目構成で、頭にあったのは、ストーリー性を重視し、観客に見入ってもらう舞台にすることだった。そのために演目を詰め込み過ぎたかとも思った。本番直前まで続く変更にも生徒は「国立に立つぞ！」を合言葉に、必死についてきた。それが全国高総文祭最優秀賞受賞となって実を結んだ。ここまで作って、やっと全国に通用するののかという厳しさであった。

銀河鉄道鹿踊り部

国立劇場行き

花巻農業高等学校 鹿踊り部

コーチ 大野 五月男



▲優秀校東京公演より

後に審査員の講評を読み、努力が報われたと感激の涙を抑えきれなかった。今後も《国立劇場行き》の切符を掴む為に生徒とともに邁進したいと思っている。また、生徒には鹿踊りだけでなく様々な郷土芸能に関心を持ち、郷土に根付いた活動を続けてほしいと切に願っている。

十三分の感動

花巻農業高等学校 鹿踊り部

保護者 伊藤 香織

「国立劇場で演舞する」という目標を掲げ、励まし合い、時にぶつかりながら努力を続けた、24名の子供達。その大きな夢が、この夏現実になりました。全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演は、8月末の土日に国立劇場で開催されます。郷土芸能部門（伝承）からは、上位二校だけが出演できます。



▲全国高総文祭からの帰路新花巻駅、生徒・保護者・コーチ・顧問・校長で集合写真

念願だった国立劇場で演舞できる喜びと、花巻春日流鹿踊への誇り、最優秀賞を受賞した自信、一緒に演舞している仲間と周りの方々への感謝。13分の演舞にその全てが詰まり、勇壮な太鼓の音と共に観客の心に響きました。さらさらの揺れる音、両隣の鹿の角が触れ合う音、呼吸を整える息づかい、そんな僅かな音でさえ会場の端まで聞こえ、瞬きも惜しいと思わせる程、観客を引き付ける圧巻の演舞でした。

指導に関わってくださった保存会の方々や先の方、花巻春日流鹿踊を絶え間なく受け継いでくださった先輩方、たくさんの方の厳しくも温かい応援のおかげにより成し得た快挙となりました。皆様に心より感謝申し上げます。

第67回東北地区高P連郡山大会

7月5日(木)～6日(金)

ビッグバレットふくしま

こころ豊かなたくましい人づくり
変化に対応し、未来を拓く力を

素晴らしい大会だった。まず、オープニングの詩人、和合亮一氏による詩の朗読で会場はいつきに心を掴まれた。研究協議でのPTA・OB会や全国小規模校サミットの話題などの活動発表は、保護者の役割や多様性に満ちた社会のあり方を考えさせてくれた。また、柔道家・山口香氏はスポーツで育まれる自律心、自立心、判断力、決断力、社会性などの資質は普遍的なものであり、これこそがスポーツの意味や価値であるという。同時に、スポーツは社会を映す鏡でもある。我慢、根性は必要だが、今後は益々、発想力やひらめき等の感性が重要になってくるという。引用された言葉「You touch the future」は予測不可能な未来への道を照らしているような気がした。今日、子どもにかけた一言が子どもの未来につながり、大人の行動が勇氣を与え成長に役立つと、フィナーレは高校生の合唱と管弦楽の響きが希望の光を感じさせ、郡山大会を深く印象づけるものとなった。次期開催地は山形市。

第68回全国高P連大会 佐賀大会開催される

「広めよう 高めよう 慈しみの心」君たちが創る希望の明日ををテーマに8月20日(月)・21日(火)、全国から9,234名、岩手県からは150名が参加して開催されました。1日目の開会式はメイン会場の佐賀県総合体育館で行われ、サブ会場の佐賀市文化会館、唐津市文化体育館、鳥栖市民文化会館、嬉野市体育館には映像配信されました。

基調講演はレモンさんのビタミントーク！「慈しみの愛言葉！We are シンセキー」と題して大学の講師でもあるレモンさん山本シュウさんのお話でした。私達はみんな親戚、学校、保護者、地域がひとつになり互いの信頼関係が大切だということが伝わってきました。独特な話し方パフォーマンズで会場は大いに盛り上がりました。午後からは7分科会に分かれて実施。第4分科会では大船渡高校の鎌田仁会長が日頃の活動や、大船渡学について発表しました。2日目の記念講演は5会場に分かれて行われ、佐賀県に縁のある講師がそれぞれの仕事に関わるお話をしました。最後に閉会式で次年度開催地の京都に大会旗が引き継がれ幕を閉じました。京都大会からは日程や分科会等、大会の形が新しくなる予定です。

全国高等学校PTA連合会大会 佐賀大会で発表して

全国大会
発表

大船渡高等学校PTA会長

鎌田 仁



嬉野市で第4分科会の発表が行われました。テーマは「家庭教育とPTA」情報社会で問い直される家庭教育とPTA活動。19日の全体会議のため嬉野へと向かい、昼に軽くそばを食べて行く予定でしたが、どこを探してもラーメン屋しなく、コンビニや地元民に聞いてもない、なぜか：ここはとんこつの牙城でした。そして当日、さすが九州です、体育館に冷房がありおかげさまで過ごしやすく発表しました。冒頭、北部大板地震・

学校と保護者をつなぐ活動とは 何ができるのか

東北大会
発表

北上翔南高等学校PTA副会長

高橋カヨ子



去る、7月5日・6日、第67回東北地区高等学校PTA連合会郡山大会にて、岩手県を代表して、本校のPTA活動の様子を報告する機会を頂き、発表して参りました。会場となった、福島県産業交流館ビッグバレットふくしまには、東北の各高等学校から参加したPTA役員や先生方、総勢1500人を上回る参加者にお祭り騒ぎの様なワクワク感と、使命を感じながら、PTA活動の様子を8分間にま

とめ、報告発表しなくてはいけない私にとっては、身が引き締まる思いでした。今、振り返ってみますと、どの学校も生徒・先生方・保護者・地域を交え、よりよい方向を目指し悪戦苦闘しながら前進し続けている様が、発表より感じられ、この姿があるから、子ども達は、健全な高校生活が送れているのだと思えました。結びに、本校は、来年創立100周年を迎えます。これからまた、新たな船出となり、地域に根ざし輝き続ける学校である事を望むばかりです。

受賞おめでとうございます

- ☆平成30年度PTA活動振興功労者文部科学大臣表彰
岩手県高P連会 長 渡 正 和
岩手県高P連事務局 長 高 橋 秀 幸
- ☆平成30年度優良PTA文部科学大臣表彰
平館高校PTA
- ☆平成30年度全国高P連会長表彰
(団体表彰) 伊保内高等学校PTA
盛岡工業高等学校PTA
- ☆平成30年度岩手県教育表彰
岩谷堂高校PTA 岩泉高校PTA
- ☆平成30年度第67回東北地区高P連郡山大会表彰
(感謝状) 盛岡工業高校 山 崎 元彦
西和賀高校 高 橋 輝 佳
久慈高校 下 沼 光 昭
(表彰状) 盛岡市立高校 沼 田 浩 仁
一関工業高校 小野寺 三 浦
釜石商工高校 三 浦 光 仁
- ☆平成29年度東北地区高P連広報紙コンクール
優秀賞 一関第一高校 「温故知新」
優良賞 大船渡高校 「さかみち」
奨励賞 盛岡第四高校 「志高」

※30年度の広報紙コンクール審査は12月～2月におこないます。



▲東北地区高P連郡山大会 スクリーン上(右)は渡辺会長

子どもたちと共に歩むPTA活動

東北大会
個人表彰

盛岡市立高等学校前PTA会長

沼田 昭



盛岡市立高校で、PTA役員を7年間、4年間PTA会長を務めさせて頂きました。小中学校と違い、如何に生徒とPTAが関わり、学校生活を充実させるかが私のテーマでした。生徒会執行部との懇談会、桜祭祭での「おやじの力餅」振る舞い（生徒と一緒に杵で突きました）。体育祭でのドリンク提供など様々な活動を行いました。その中でも懇談会から要

望が有った駐輪場の照明設置、食堂の復活は、生徒の悲願でもあったのでPTAとして応えられた事に自己満足しております。PTA役員でPTA発祥の地盛岡で全国大会を迎えられたこと、東北大会を開催出来たことは、とても貴重な体験をさせて頂きました。そして、7年間と長きに渡り役員を務めさせて頂いた功績で個人受賞をさせて頂いた事は、市立高校、高P連の皆様のお力添えのお陰であり、感謝しております。誠にありがとうございます。

よくPTAの在り方についての議論を目にします。「任意団体であるのに、全員加入はおかしいのでは？」この事について私はPTA入会式の際に必ず言ってきた事があります。「子どもの一番近くにいる応援者は我々保護者である。子どもの応援をしない親はいませんよね。その応援者が集まって子ども達の応援団を作るのがPTAです。」と。最後になりますが、PTAを通し沢山の方々との出会いがありました。支えて下さった皆様方への感謝と、今後の岩手県高P連の発展を心から願っております。

感謝の心

東北大会
感謝状

盛岡工業高等学校前PTA会長

山崎 元



東北地区高P連郡山大会にて感謝状を頂き感謝しております。平成28、29年度の2年間盛岡工業高校の会長を務めさせて頂きました。この間、県高P連副会長、進路対策委員長など様々な役割がありました。第26回会長研修会にて、「親子ともに充実した3年間であるために」と題し事例発表をさせて頂きましたが、振り返りますと、仕事との両立の難しさを感じながらも、仕事との両立の難しさを感じながらも、充実した2年間であったと思っております。

優良PTA文部科学大臣表彰を受けて

優良PTA
文部科学大臣表彰

平館高等学校PTA会長

橋本 光幸



去る8月に開催された第68回全国高等学校PTA連合大会佐賀大会において、平館高等学校PTAはこれまでのPTA活動が評価され優良PTA文部科学大臣表彰を授与されました。名誉ある表彰を受け大変光栄に思うとともに、先人の方々に感謝申し上げます。

平館高校は、地域唯一の高校として地域から愛され育てられてきました。子ども達の成長は人との関わり合いが大きく左

右されると自分は考え、そのような環境を生み出すため、地域住民との連携はPTA活動には欠かせないものと思っております。

社会はコミュニケーション能力の高い人材を求めており、地域を巻き込んだPTA活動は必要不可欠であると考えます。田舎という環境はますます子どもたちに疎遠にされがちですが、地域との連携を保ちながら、PTA会員一同一致団結してこれまでの活動を継続していきたいと思っております。



伝統の継承

全国高P連会長表彰
(団体表彰)

盛岡工業高等学校PTA会長

藤澤 正博



盛岡工業高校は、今年度創立120周年を迎えました。この記念すべき年に全国大

会団体表彰を受賞させて頂き、盛岡PTA一同大変光栄に感じております。また、これまで本校PTA活動に携わって来た歴代PTAの方々へ感謝する次第です。

本校のPTA活動は、より多くの保護者の方々にどうすれば学校に足を運んで

もらい、活動に参加してもらえるか、企画や日程など工夫しながら取り組んでおります。学校に足を運んでもらうことで、子どもとの会話が増えたり、保護者同士の交流が活発になったりするなど、役員になった保護者自身が楽しみながら活動を行うことが伝統的に受け継がれていると思えます。

これからも、PTA活動を楽しみながら行うことが、学校全体の活性化の一助となればと考えております。この度はありがとうございました。

第28回会長研修会 歴史と先人に思いを馳せ、今と 未来を生きる子どもたちを見つめる

平成30年度岩手県高等学校PTA連合会(渡辺正和会長)第28回会長研修会が、10月19日と20日の二日間、花巻のホテル千秋閣で開かれました。各高等学校のPTA会長、副会長ら48人が出席し1日目(19日)は研究協議と講演、2日目(20日)は研究協議が行われ、参加者はそれぞれ意見交換や交流をはかる場となりました。



▲佐藤先生より助言をいただく



▲岩手県立博物館専門学芸員 佐々木康裕さんによる講演

PTAとしては生徒の活動に制限が出てきてしまうのではと懸念しており何かできる事がないかと思索している状況だと話しました。また、発表の中で岩渕PTA会長は子どもの自己実現を支援する取り組みとしてPTA活動に親だけでなく、子どもたちも巻き込み親子が学校について共通の話題を持つことで情報を共有し積極的な関わりを持つようにしていると話しました。

県北地区からは、種市高等学校の吹切守PTA会長が「地域の教育力と学校の特性を生かしたPTA

活動の取組み」と題して発表しました。

NHK朝の連続テレビ小説あまちゃんに有名になった南部ダイバーが同校の特徴のひとつで、海洋開発科の生徒の中には父親も南部ダイバーだったという子もおり、父のようになりたいと伝統を継承していくのだと話しました。PTA活動では文化祭のさば飯づくりが名物になるなど好評ですが、バザーへの出品が少なくなっており、今後どのようにして集めていくかが課題とも話していました。

その後、助言として県高P連渡辺正和会長と岩手県高等学校長協会より花北青雲高等学校校長の佐藤睦明先生よりお話があり、その中で佐藤先生はそれぞれの学校の特徴的なPTA活動を称えつつ自身の校長

としての経験も交えながら感想を述べました。また、少子化による生徒数の減少に触れこれまでとは学校の役割が変化していくと予想。そういった中でこれまで以上に保護者と教員との連携が必要不可欠になるとお話し、PTAとのより一層の協力を確認しました。



続いて講演会に移り、岩手県立博物館専門学芸員 佐々木康裕さんが「中世南部氏の歴史、山梨から青森、そして岩手へ」と題して講演しました。その中で佐々木さんは、岩手県のルーツである盛岡藩をさらに中世までさかのぼり南部氏がいかにかして山梨からこの岩手にたどり着いたのかを資料や家系図、実際に現地を訪れて感じた事を交えてお話し。参加者は真剣に耳を傾けていました。

講演を終えての質疑応答でも多くの方が興味を持っている様子が伝わり1日目の最後に行われた懇親会でも話題の中心となりました。



▲講演に耳を傾ける参加者の皆さん

岩手県教育表彰に輝く 岩谷堂高校PTA

岩手県立岩谷堂高等学校

PTA会長

小田嶋 徹



この度は岩手県教育表彰の光栄に預かり、岩谷堂高校PTA一同大変嬉しく思っております。本校は全校生徒483名の中規模校で、今年度、創立100周年を迎えました。その記念すべき年に花を添えていただき、誠にありがとうございます。今回の受賞は、現PTA会員の方々のご協力はもとより、歴代役員や先輩会員の皆様のご尽力のお陰と深く感謝いたします。

本校のPTA活動の特徴は、東日本大震災以来、被災地復興支援を念頭に活動していることです。PTA研修旅行の行き先は、平成二十四年度から被災地方面とし、防災研修を深めながら復興支援の一助となるよう実施してまいりました。また母親委員会では、文化祭でバザーや「手づくり団子」の模擬店を開き、その収益を大船渡東高校PTA様に支援金として贈らせていただいております。今年度はバザー品の集まりが良く、例年の一・五倍の売上げがありました。

今回の表彰を糧に、さらに先生と保護者、また保護者同士の連携を深め、活気あふれるPTA活動を推進したいと思っております。本当にありがとうございます。

つなげよう みんなの心

未来を担う 子どもたちの幸せを願い 今できること

母親会員交流会



岩手県高等学校PTA連合会の第18回母親会員交流会が9月27日、サンセール盛岡で開かれました。県内43校から母親会員108人が参加し、「つなげよう みんなの心」をスローガンに掲げ、「未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること」をテーマに開催。午前中は開会式に続き「一人は変わる ～今を支える心のリレー～」と題し盛岡地区保護司会理事で盛岡市子ども会育成会連絡協議会会長



▲講演 鎌田まき子さん

の鎌田まき子さんによる講演が行われ参加者は熱心に耳を傾けていました。

講演の中で鎌田さんはたくさん子どもたちと関わる中で、外見や性格に関係なく大人がしっかりと向き合い関わってあげれば、皆同じかわい子子どもであり、その真の姿が必ず見えて来ると感じたと話していました。その後、両親や学校、周囲の人々との関りの中で道を外れてしまった少年がどのように変わっていきけるのかというテーマのビデオを観賞し、両親が子どもに普段何気なくかけている言葉の影響の大きさについてや自分の目指したいものや居場所に悩む時期に両親の過度な期待や思い入れが子どもへの精神的な負担になる可能性などをお話いただきました。

午後からは平館高等学校と住田高等学校の事例発表とグループ協議の後全体協議が行われました。

平館高等学校は母親委員長藤原里佳さんが発表。同校は昭和23年に創立、今年70周年を迎える八幡平市唯一の高校。ひつつみレンジャーの活躍や紫薫祭での出



店やもちの振る舞いなどユニークで活気の伝わる活動の報告となりました。

住田高等学校は母親委員長千葉美千代さんが発表。沿岸南部に位置し自然環境に恵

まれた同校は生徒数87名と少数ながら、様々な経験を通し充実した学校生活の様子やPTA活動を動画で報告。住田町が無償で提供する学校給食の様子や海外派遣授業で現地の学生と交流する様子などを報告しました。その後グループに分かれて活発に意見や感想を出し合い、代表者による発表が行われました。

閉会式では来賓を代表し秋田県高P連副会長で母親委員長の川村真奈美さんから講評をいただき閉会となりました。



PTA活動振興功労者 文部科学大臣表彰受賞

渡辺正和会長と 高橋秀幸事務局長

この文部科学大臣による表彰はPTA創立の節目として5年毎におこなわれているもので、PTA活動の振興に顕著な功績があると認められる人に贈られています。本年度8月の全国高P連大会佐賀大会にて表彰を受けました。

本連合会の渡辺正和会長は平成27年度の全国高P連大会岩手大会の実行委員長として、さらに平成29年度には東北地区高P連盛岡大会会長として、二つの大会を成功に導きました。また、高橋事務局長は平成23年度から岩手県高P連に携わり、平成27年度全国大会岩手大会及び29年度東北地区盛岡大会の主管県連事務局長としてその計画と運営をおこないました。会長・事務局長ともに、本会の方向性やその運営について、会員・関係各位の多くの方々のご意見を取り入れ、お人柄からも親しみと信頼を集め、県連は勿論、東北地区高P連や全国高P連の健全な運営に大きく寄与されています。



▲ 渡辺正和会長



▲ 高橋秀幸事務局長

第48回 事務局長研修会

平成30年11月9日(金)
会場/サンセール盛岡(盛岡市)

平成30年度第48回事務局長研修会は、62校からの参加者で行われ、2校の研究協議発表、各校提出協議題について活発な意見交換が行われ、岩手県高等学校校長協会の菅原尚志盛岡第二高等学校校長より助言をいただいた。

高校生の自己実現を支援するPTA活動はどうあればよいか



大東高等学校 佐藤 裕先生

学校は私立摺沢家政女学校、摺沢高校、大東高校となり、学校再編により大原商業高校と統合し、一昨年創立90周年を迎えた。普通科3クラス、情報ビジネス科1クラスだが、少子化の影響で、来年度の募集から普通科が1クラス減の2クラスとなる。琢磨祭(文化祭)への出店では、生徒が一番の客だが、準備段階の手伝いも含め、生徒との対話や交流が生まれている。料理講習会を母親会員と希望生徒で行い、共に作り、食べることも交流を図っている。また部活動の父母会のつながりがPTAへの声がけとなり、PTA活動の参加に結びついている。

PTA活動に子どもたちを参加させることで、親子で学校に関する共通の話題を持たせたい。父母会などの横のつながりで、協力的体制ができ、保護者が積極的に学校に関わることが出来ればよいと思う。それが生徒の自己実現を支援することに結びついていくと考え、取り組んでいる。

青少年に「生きる力」を身につけさせるPTA活動はどうあればよいか



伊保内高等学校 小田島 哲男先生

昭和24年に福岡高校伊保内分校として開校。48年には伊保

内高校として独立。クラスマッチでは母親委員会から豚汁が提供され、子どもたちは保護者に感謝状の贈呈が行われる。九戸祭では、リヤカーに学校の宣伝を書き、在校生、卒業生、PTA会員らが学校のPRを行っている。文化祭のバザー提供は、保護者のみならず、村内の一般企業からも募り、生徒と保護者で協力して回収を行っている。生徒の活動では、郷土芸能委員会の神楽が老人ホームでの披露や、災害地域への義援金活動を、地域の読書会では紙芝居の読み聞かせなどを村ぐるみで行い地域交流を図っている。

来年度は70周年記念式典がある。少子化により、完全に各学年1クラスになるが、小規模校にしかない魅力を発信し、各生徒が生きる力を身につけられるように保護者と地域、職員が一緒になって育てていきたい。

〈各校提出議題〉

①各校の東日本大震災に対する支援について
震災から7年が経ち、学び基金、県の奨学金等、支援が厚くなってきた。学校独自で支援を行ってきた学校も、生徒数の減少に伴い、検討する状況になってきている。

岩手県学生会館入寮生募集

～初めての東京生活を支える安心の寮生活～

〔会館施設概要〕

- 所在地:〒171-0043 東京都豊島区要町2-5-5
JR池袋駅まで徒歩15分、東京メトロ要町駅 徒歩5分
- 資格:岩手県出身者で大学院、大学、短期大学、専門学校等に通学する人
- 寮費:月額80,000円(朝夕2食)、入寮時費用 10万円
- 室内:洋室13.5㎡(全室個室)
- 設備:机、本棚、ベッド、カーペット、洗面化粧台、冷暖房器等



〔申し込み・問い合わせ〕

公益財団法人 岩手県学生支援会
(岩手県学生会館内) TEL:03-3972-4783
※募集要項、申込書類はホームページから
<http://www.gakuseikaikan-iwate.or.jp/>



(記録・大船渡東高 足立 勝)

②PTA総会等のPTA行事の参加率向上の取組について
保護者が関心をもつて参加できるようにする必要があります。学年会や生徒の成長が身近に感じられる企画などが上げられる。

がんばる岩手

第15回

伊保内高等学校 PTA 会長 本堂友明



小規模校の魅力発信

岩手県の北部に位置し、生徒

数86名と小規模校ではあります。生徒一人一人が輝いて学校生活を送っています。小規模校のメリットを生かした、個々の生徒に寄り添った授業、進路の実現に向けて取り組んでおり、進路決定率100%となっております。

また、一人一人が生徒会、部活、委員会など何役も担っており、忙しい中にも充実した学校生活を送り個々の成長にも繋がっております。

九戸村からも、通学費の補助、給食提供、海外派遣事業の実施、進学、部活動支援等々、様々な支援を頂いており、行政、保護者、教職員が一体となり、子どもたちの成長に日々努めております。PTA活動としては、環境整備活動(植栽活動)、登校時の挨拶運動(年2回)、母親委員会によるクラスマッチでの豚汁提供、伊高祭のフードコート運営やバザーの物品提供と運営などを行っております。特に、フードコートでの鳥のから揚げは毎年好評を博しております。

また、春の「山菜の会」秋の「茸の会」を行い、PTAと教職員の交流にも務めております。地元の九戸祭にはPTA自作の山車をひき、生徒、教職員、PTA会員、卒業生が参加して祭を盛り上げています。

伊保内高等学校PTAは第68回全国高P連において会長表彰を賜りました。これも一重に、これまで取り組んでこられた諸先輩のご尽力の賜物と感謝申し上げます。これからも、地域の宝であり、活力の源である子どもたちの為に取り組んで参りたいと思っております。

岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員長
橋本光幸
(平館高等学校)

子どもを見守る

親世代の情報交換

日頃より健全育成委員会活動にご協力いただき感謝申し上げます。今年度の健全育成委員会の取り組みは、6月に行われた東北高P連健全育成委員会において、各県統一とし「登校時一声運動・マナーアップ運動」を実施させていただきました。各校ともPTA会員・地域の方々から多数参加いただき、実施させていただきました。実施アンケートの結果も、効果的であるとの意見がいただき、活動参加に意欲的であることもうかがわれました。

8月に行われた東北高P連健全育成委員会では活動広報誌についても協議いたしました。広報誌は、印刷部数の制限もあり各校に必要な部数が配布できないことから電子媒体による発行についても検討しているところであります。

健全育成委員会の役割は交通安全指導や非行防止(SNS、いじめ等)等があります。登校時一声運動・マナーアップ運動の活動は、会員相互で子どもたちを見守りながら、ルー ル社会に通用する大人に成長させるよう導く良い手法であり、目に見え理解しやすいものです。しかしSNSについては、目に見えずわかりづらいものとなっております。このよう なことから、親世代による情報交換の場が必要となっており、PTA活動参加による交流は重要なアイテムであると思っております。今後とも会員各位の積極的な活動参加と、意欲的な意見交換をよろしくお願いいたします。



進路対策委員長
市川清志
(花巻北高等学校)

社会人を目指す進路対策

6月20日、サンセール盛岡において第1回進路対策委員会を開催しました。まず昨年度の活動について報告がありました。また、昨年度は企業が求める人材について、企業経営者のお話しと座談会を開催し、これまでにはない有意義な活動実績を残すことができたことが報告されました。これを受けて、今年度の活動も昨年度と同様に座談会を開催することとし、職業安定所の専門家からお話しをお聞きすることとしました。この活動方針に基づき、11月22日には花巻北高校において、花巻公

共職業安定所長から、県内の就職状況や全国の動向、企業に求められる人材、高校生やその保護者に望むことなどについてお話しをいただき、そのあとに意見交換を行いました。この内容については、後ほど皆さまにお伝えする予定です。東北地区の進路対策委員会においても、今年度は高校生の地元定着を促す青森県の取り組みを例に意見交換をする予定です。普通高校や実業高校など、高校の種類によっては子どもたちや保護者の進路に対する考えは多様ですが、PTAとして結果的に目指すところは、子どもたちが職業に就き社会の一員として自立することだと思っております。社会人としての自立意識や職業観を早い時期から考えさせることが大切であり、保護者としてもそれを意識していくことが重要だと感じます。



調査広報委員長
斎藤憲一
(水沢農業高等学校)

各校の思いが詰まる広報紙

今年度の調査広報委員は、委員長が水沢農業高校の斎藤憲一、副委員長が前沢高校の工藤幸子さん、委員は大船渡高校の鎌田仁さん、二戸高校の小林一幸さん、遠野高校の菊池由美さんで運営しています。

6月20日(水)に第1回委員会を実施し、前年度事務局を担当した西和賀高校の杉村文枝先生より事業報告と引き継ぎ事項などを確認し、今年度の事業について話し合いました。また、9月7日(金)には、東北地区調査

広報委員会が宮城県で行われ、講演で河北新報社の報道部長代理の山野公寛氏による「読み手の心に響く紙面」わかりやすく伝えるコツ」と題した講話を聴き、読みやすい広報紙を作るには生徒、教員、保護者を一人でも多く登場させること、PTA活動は大学のサークルのようで実は楽しい事を伝えること、会長や校長のあいさつは短く、写真は顔写真ではなくポーズ写真や活動しているものを取り入れると、広報紙の雰囲気が大きく変わり読みやすいものになるそうです。

今年度の広報紙コンクールには、県下より43校の応募がありました。審査をとおしながら、各校の思いが詰まった広報紙は活動や特集がとても参考になり、しっかりと審査したいと思っております。

最後になりますが、次年度もたくさんの広報紙が応募されるようご協力をお願い申し上げます。活動報告とさせていただきます。



母親委員長
菊池まゆみ
(盛岡第四高等学校)

「気づく」ことの大切さ

9月27日(木)、第18回岩手県母親会交流会が県内43校108名の母親会員の参加をいただき、「未来を担う子どもたちの幸せを願い、今できることをテーマに開催されました。

私たち母親は、常に子どもの幸せを願い、日々子育てに奮闘しているわけですが、高校生となれば多感な時期です。そこで、どのよう に子どもに接していけばよいのかという視点で、盛岡保護司会理事の鎌田まき子先生より「人は変わる、今を支える心の

リレー」と題し、ご講演をいただきました。講演の中で、「普段子どもにかけている言葉が知らないうちに子どもにストレスをかけている」、「なぜそのような行動をするのかではなく、なぜそのような行動をしなければならぬのか、その背景に気づいてあげることが大切である」という言葉がとても印象に残りました。たまたま一言が子どもにとっては大きいもの、改めて「言葉の力の大きさ」に気づかされる講演でした。

その後は、平館高校と住田高校の小規模学校ならではの工夫をしているPTA活動事例発表、全体を通してのグループ討議が活発に行われました。

この交流会は、学校の垣根を越えて話し合い、情報交換することによりいろいろなものに「気づく」ことができた有意義な交流会であったと同時に、参加された母親会員の皆様が「笑顔」で帰っていく姿を拝見し、改めて素晴らしい交流会であったと実感しております。

子どもたちの笑顔のために

岩手県立宮古北高等学校
PTA会長

平内 美代子



本校は普通科・体育科がありましたが、生徒数の減少に伴い現在は普通科のみの学校です。校訓「誠実・剛健・進取」を基に、生徒達は日々様々なことにチャレンジしています。PTA組織として、会長・副会長・クラス役員(理事)・会員で構成されています。春の行事、オリンピック(校内体育大会)では、豚汁を作り、生徒達のお昼として提供し、午後は保護者と一緒にスポーツをして汗を流しています。登校時一声運動・マナーアップ運動では、生徒昇降口で登校してくる生徒達に声かけをしました。生徒達も、明るい笑顔で元氣よく挨拶してくれました。秋の文化祭「宮北祭」では、PTA食堂とPTAバザーを開



▲宮古北文化祭 餅まき

きました。今年度の食堂メニューは、カレーライスと天ぷらそばを販売しました。バザーでは、メインとして野菜を販売しますが、他にも漁協・菓子店のご協力をいただき、海産物等の販売も行います。また、一般公開の最後には、餅まきを行いました。来校してくださったお客様も交え、楽しい時間を過ごすことができました。本校は、全生徒数が70名と、とても少ないために、こうした行事の際には、役員以外の会員も含め一丸となって学校行事を盛り上げています。これからも、私達PTAは、子ども達の笑顔のために、一生懸命活動が続けていきたいと思っています。

笑顔になれる活動を目指して

岩手県立盛岡青松支援学校
PTA会長

今野 浩子



本校は、平成21年度に青山養護学校と松園養護学校が統合し開校した特別支援学校で、今年度で10年目を迎えました。小学部、中学部、高等部、訪問教育部が設置されており、校訓「明朗・自主・創造」のもと生きる力を身に付けることを目指して日々の活動に取り組んでいます。実際のPTA活動は、各学部から選出された理事が研修・茶話会・会報の3つの係に分かれて担当しています。研修係は、年1度借り上げバスでの研修旅行を計画、昨年度は夏休み中に親子で参加できる「小岩井農場満喫ツアー」、今年度は9月に「進路先見学ツアー」を実施しました。茶話会係は、様々なテーマで活動をしながらの交流を



▲平成29年PTA研修会「小岩井農場満喫ツアー」

計画、今年度は高等部調理班のレシピでクッキングと会食、繭細工作品制作、フットセラピーでリフレッシュを実施しました。ふだん顔を合わせることの少ない保護者さん同士も打ち解けておしゃべりしやすいとリピーターが多くなっています。会報係は、会員が紙面参加できるコーナーを工夫して現在「青松川柳・俳句」「我が家のペット自慢」を好評連載中です。自宅が学校から離れていたりと、転入会員も多い状況ですので、無理なく都合のつくときに初めてでも参加しやすい行事を年間通して計画し、「行ける場所」があること、行ったら「笑顔で帰れること」を大切にして活動しています。

編集後記

ポローニア第41号発行にあたり、原稿の筆耕に御協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

紅葉の季節も終わり、雪が降る季節がやってきました。各校のPTA活動も一段落したかと思えます。8月に行われた高P連全国大会(佐賀大会)には、各校のPTAでも参加されたと思います。基調講演、各分科会、記念講演に参加させていただき、保護者として大変勉強させていただきました。

水沢農業高校には、長男と次女が入学し4年間お世話になりました。早いもので、次女の卒業で私も卒業となります。PTAとは、親(P)先生(T)と力を合わせ、子供たちの学校生活をより良いものにするための団体(A)です。

思い起こしてみると、PTA活動は仕事を休まなければならぬ時もあり、職場に変な迷惑をかけました。この場をお借りし、感謝申し上げます。しかし、PTA活動は保護者として勉強になるとともに各行事は何より楽しく、自ら率先し参加させて頂きました。最後になりますが、今後もPTA活動の活性化へ協力していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

(調査広報委員長・斎藤憲二)

〈編集委員〉調査広報委員会

- 委員長 斎藤 憲二(水沢農業高校)
- 副委員長 工藤 幸子(前沢高校)
- 委員 菊池 由美(遠野高校)
- 鎌田 仁(大船渡高校)
- 小林 一幸(一戸高校)

◇事務局

- 佐々木真二(水沢農業高校)
- 高橋 秀幸(県高P連)
- 木村 智子(県高P連)